

令和7年度 信学会裾花幼稚園 「園の自己評価」

より良い園運営を行うため、園の自己評価の実施が法律で規定されました。これは国からの評価項目の指標に基づき園で取りまとめた自己評価です。

1. 園の教育目標

いっぱい遊んで 元気に挑戦！！

2. 本年度の重点目標

- (1) 頭と心と体をつかって、自由に伸び伸びと遊ぶ
- (2) 友だちのよさに気づいて、協力して活動できる
- (3) やろうときめたことを最後まであきらめずにやりぬく

3. 自己評価

A…十分達成されている

B…達成されている

C…取り組んでいるが、成果が十分でない

D…取り組みが不十分である

項目	自己評価内容	評価
教育課程・指導	・園は目指している教育目標、本年度の重点目標を周知している。	A
	・教育課程実施において、教職員は共通理解をしている。	B
保健管理	・日常の健康観察や、疾病予防のための取り組みや健康診断などを行っている。	A
安全管理	・事故やケガ等発生時の危機管理マニュアルが整備されている。	B
組織運営	・園長は教育目標の達成に向けリーダーシップを発揮し、職員をリードしている。	A
	・園運営が適切に機能するために、運営・責任体制の整備を行っている。	A
研修（資質向上への取組）	・法人実施の研修会への参加と、園内研修会の実施をしている。	A
	・日々の保育の振り返りと課題を明確にしている。	B
教育目標・園評価	・幼児の実態、保護者の意見要望などを踏まえた園目標を設定している。	A
	・保護者アンケートの実施と、学校関係者委員会（モニター会）を設置している。	A
	・本年度の重点目標達成のための取り組みをしている。	B
情報提供	・園公開を実施し、園の取り組みを広く情報提供している。	A
	・園の情報を広く公開するために、ホームページ等を活用している。	B
保護者・地域住民との連携	・PTA や学校関係者委員会（モニター会）等で定期的に懇談会を実施している。	A
子育て支援・預かり保育	・地域における保護者の実情や、子育て支援ニーズを把握している。	B
	・保護者の実情や要望を取り入れ、預かり保育・希望保育事業を実施している。	A
教育整備環境	・子どもの成長に則した教育環境になるよう工夫を重ねている。	B

4. 学校関係者評価委員(モニター)からの評価

- ・子どもがやりたいことを重視した活動をしてもらえている。子どもが楽しそうで充実している様子がわかる。
- ・園での活動を家で話したり調べたりするようになった。自分で考える力がついてきた。
- ・子どもが主体の保育は難しいと思うが、子どもが想像することを形にすることの大変さ。行事なども年長が主体となりながら、子どもが真ん中にあるということが伝わってくる。自分で思ったことを実現できたという達成感を子どもから感じる。
- ・異年齢での交流があるため、来年度に対しても年下の子の面倒をみようと思欲的になっている。
- ・今年度から認定こども園になって、自主性を大事にしている方向性を感じる。5歳上の姉の時から園の様子がアップデートされていて、先生たちの努力を感じる。
- ・遊びながらルールを教える方向性を感じる

5. 今年度の総合的な園評価と次年度への課題

- ・様々な経験を通して、自分で挑戦したり、友だちに紹介したり、自分の考えや気持ちをサークルタイムで伝え

合う場面が増えたことで、人前に出て発表することに自信が持てるようになってきている。

- ・行事の際に、異年齢グループでの活動を取り入れてきたところ、交流を通して相手の立場に立って考えたり、自分の考えや気持ちを伝えたり、年下の子には方法を教えたりする力が育った。また、年上の子に憧れの気持ちも芽生えてきている。
- ・あきらめずにやりぬくために、子どもたちが楽しいと感じる活動を通して、必要な環境を整えて、少しずつでもできた喜びを自信にして、次の挑戦につなぐことができるようになってきている。
- ・自分の思いを伝える(表現する)ことに得意不得意があり、様々な面で1対1の関わりが必要な子も多く、子どもたちの満足度をあげるためには、担任だけでなく、大勢の職員で子どもたちを見ていく必要がある。そのために、常勤・非常勤職員の枠を超えて、情報共有する時間を確保し、職員全体での意識統一を図ってきた。引き続き、全職員で一人ひとりのお子さんに関わっていくようにする。